

実体経済の動向

◇ 8月の生産は予測を大幅に下回る伸び

(生産——8月は増加)

8月の鉱工業生産(速報、季節調整済み、前月比)は、前月減少(-0.4%)のあと+1.1%と増加に転じた。もっともこれは、製造工業の8月生産予測指数伸び率(+5.1%)を大きく下回り、また3ヵ月移動平均値(季節調整済み)の前月比でても5月+0.6%、6月+0.8%のあと7月は+0.3%にとどまり、最近の生産面での制約が目だって解消したとはみられない。

8月の動きを特殊分類別にみると、一般資本財では金属工作機械の増加に加えて機械プレス、圧延機械等大型機械完工の集中もあって+4.0%と前月(+4.0%)に引き続き高い伸びを示したが、建設資材は、セメントのキルン補修による減産や、形鋼、鉄骨、橋りょう等の減少から-2.4%と前月(-1.1%)に引き続きかなりの減少となり、耐久消費財も-0.1%と減少(乗用車<360cc以下>、カラーテレビ、ステレオ等が主因)を続けたほか、

非耐久消費財は前月比横ばい(服類増加の反面、メリヤス生地、下着、外衣が減少)にとどまった。また生産財でも、前月著減を示した化学品が公害問題の落着き(かせいソーダ)、エチレン装置爆発事故後の応急措置奏功(二塩化エチレン、塩ビ樹脂)などからかなりの生産回復を示したが、工業用水、電力の不足により鉄鋼(粗鋼、鋼帯等)、紙・パルプ(製紙パルプ、段ボール原紙)が引き続き減少となったため、+0.7%(前月-1.5%)と小幅な伸びにとどまった。

(出荷——引き続き伸び悩み)

8月の鉱工業出荷(速報、季節調整済み、前月比)は、-1.6%(前月+1.1%)と減少、フレの大きい船舶を除いても-0.1%(前月+0.2%)と伸び悩み傾向を続けた。

これを特殊分類別にみると、生産とはほぼ同様一般資本財が機械プレス、圧延機械、トラクター(装軌式)、木工機械等の出荷好調から+5.0%と前月(+3.1%)を上回る著増となった反面、資本財輸送機械が輸出船引渡しの減少に加え、乗用車(1,500cc以上)の一部車種モデル・チェンジに伴う出荷減少から著減を示したことが目だったほか、建設資材(-2.4%、セメント、棒鋼、形鋼

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	47年		48年		48年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
鉱工業指数	110.8	116.1	123.9	128.2	129.5	129.0	130.4
前期(月)比	2.9	4.8	6.7	3.5	0.2	-0.4	1.1
前年同期(月)比	7.2	12.3	17.5	19.0	19.2	19.0	17.1
投資財	4.8	5.9	10.2	5.2	-1.0	1.0	2.2
資本財	4.6	6.3	12.2	5.4	-1.8	2.0	3.8
同(輸送機械を除く)	7.0	5.4	13.7	7.7	-2.2	4.0	4.0
輸送機械	0.4	8.8	8.7	0.7	-0.5	-2.0	—
建設資材	4.9	5.6	5.6	5.0	1.3	-1.1	-2.4
消費財	0.9	2.9	2.6	2.4	0.9	-0.1	—
耐久消費財	1.0	2.9	4.6	1.3	4.1	-1.6	-0.1
非耐久消費財	1.0	2.9	2.0	2.1	-1.5	1.2	0
生産財	2.5	5.1	6.4	3.0	0.8	-1.5	0.7

(注) 1. 通産省調べ、48年8月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	47年		48年		48年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
鉱工業指数	112.6	118.1	126.0	130.0	130.2	131.6	129.5
前期(月)比	2.8	4.9	6.7	3.2	-1.4	1.1	-1.6
前年同期(月)比	8.4	13.3	17.1	18.8	17.7	19.4	14.5
投資財	5.5	5.0	9.5	5.9	-5.9	5.9	-3.8
資本財	6.3	4.0	11.4	6.3	-9.1	9.7	-4.1
同(輸送機械を除く)	4.5	5.3	14.7	7.5	-0.8	3.1	5.0
輸送機械	8.4	2.1	7.7	3.6	-21.3	21.0	—
建設資材	4.6	6.3	6.3	5.3	0.8	-1.5	-2.4
消費財	0.3	4.2	4.0	0.2	-0.4	1.2	-2.6
耐久消費財	0.2	5.2	2.6	0.1	1.3	1.8	-3.5
非耐久消費財	0.1	3.9	5.5	-0.9	-1.9	0.1	-0.2
生産財	2.9	5.2	5.8	3.6	1.2	-1.6	0.2

(注) 1. 通産省調べ、48年8月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

等)、耐久消費財(−3.5%、乗用車<360cc以下>、カラーテレビ、ステレオ等)、非耐久消費財(−0.2%、メリヤス生地、下着、外衣等)がいずれも減少となったほか、生産財も品不足感の強い化学製品(かせいソーダ、二塩化エチレン、塩ビ樹脂等)が生産回復を映じて出荷増加をみたものの、鉄鋼(鋼板、鋼帯)が生産減に加え輸出船積みの遅れから減少したため、+0.2%と小幅増加にとどまった。

(製品在庫——8月は反転増)

8月の生産者製品在庫(速報、季節調整済み、前月比)は、前月横ばいのあと+1.7%と3ヵ月ぶりに増加を示した。

特殊分類別にみると、生産財で、石油製品(ナフサ等)がエチレン装置爆発事故の影響などから、また鉄鋼(鋼板、鋼帯)が輸出船積みの遅れからそれぞれかなりの増加となったため+1.3%となったこと、非耐久消費財が、灯油の備蓄在庫積上げなどから+2.0%(前月+1.2%)と増加したことが全体の増加に大きく寄与しているほか、耐久消費財(+1.9%、乗用車<1,000~1,500cc>の一部車種モデル・チェンジによる積増し、石油ストーブ

の備蓄等)、建設資材(+2.7%、棒鋼、形鋼、セメント、板ガラス等)、一般資本財(+1.1%、電卓等)も、それぞれ一部の品目を中心に増加した。

この結果、生産者製品在庫率指数(45年平均=100、速報、季節調整済み)は、89.6と前月(86.7)に比べ若干上昇をみた。

(原材料在庫——7月も微増続く)

7月の原材料在庫(速報、季節調整済み、前月比)は+0.1%と前月(+3.2%)に続きわずかながら増加となった。

これを特殊分類別にみると、国産分は素原材料(−3.1%、前月−1.5%)がマンガン鉱石、鉄くず、骨材を中心にかなりの減少となったものの、ウェイトの大きい製品原材料(+0.8%、前月+2.8%)が鉄鉄、普通鋼熱延鋼材、スチレンモノマー、プロピレンの減少の反面、ナフサ、ブリキ、船舶用鋼材等の大幅増から増加を続け、一方輸入分は素原材料(+1.3%、前月+7.2%)が鉄鉱石、ボーキサイト、パルプ材、綿花、洗上羊毛を中心に、製品原材料(+5.4%、前月+11.4%)も石油コークス、製紙パルプ、溶解パルプを中心にいずれも前月に引き続きかなりの増加を示した。

この間原材料消費(速報、季節調整済み、前月

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(−)率・%)

	47年 (期別)		48年 (期別)		48年(月別)			
	9月	12月	3月	6月	6月	7月	8月	
	119.2	115.2	113.0	114.1	114.1	114.1	116.0	
鉱工業指数	119.2	115.2	113.0	114.1	114.1	114.1	116.0	
前期(月)末比	0.9	3.4	1.9	1.0	0.6	0	1.7	
前年同期(月)末比	0.5	4.9	5.5	3.4	3.4	3.5	2.0	
製品在庫率指数	104.1	94.6	89.3	87.6	87.6	86.7	89.6	
投資財	2.6	4.4	0.5	3.0	1.3	0.7	2.1	
資本財	3.3	7.9	0.6	3.2	3.1	0.1	2.2	
同(輸送機械を除く)	1.7	6.0	2.2	0.2	1.2	1.6	1.1	
輸送機械	15.1	13.8	7.4	21.0	14.6	4.5	—	
建設資材	1.7	0.6	1.7	2.8	0.3	1.5	2.7	
消費財	6.0	2.0	1.7	3.2	0.8	0.3	2.1	
耐久消費財	3.9	4.3	2.6	4.9	1.1	1.5	1.9	
非耐久消費財	7.7	0.3	5.3	2.6	0.6	1.2	2.0	
生産財	1.2	4.7	2.5	1.2	1.9	0.3	1.3	

(注) 1. 通産省調べ、48年8月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減(−)率・%)

	47年 (期別)	48年(期別)		48年(月別)		
	12月	3月	6月	5月	6月	7月
	117.8	118.8	126.6	122.7	126.6	126.7
在庫指数	117.8	118.8	126.6	122.7	126.6	126.7
前期(月)末比	0.8	0.8	6.6	1.3	3.2	0.1
国産分	3.0	0.1	6.3	3.1	2.0	0
素原材料	10.8	0.7	0.4	4.4	1.5	3.1
製品原材料	1.1	0.7	7.4	3.1	2.8	0.8
輸入分	7.9	4.6	7.3	4.8	8.1	0.9
素原材料	8.6	4.2	5.6	5.7	7.2	1.3
在庫率指数	99.7	96.4	98.6	95.9	98.6	99.0
国産分	97.5	93.5	95.8	94.3	95.8	96.2
素原材料	97.4	93.8	91.2	93.1	91.2	90.2
製品原材料	98.3	93.7	96.9	94.6	96.9	97.9
輸入分	108.8	106.9	106.6	99.0	106.6	106.5
素原材料	110.5	108.5	107.0	100.2	107.0	107.6

(注) 通産省調べ、48年7月は速報。

比)がわずかながら減少(−0.3%)となったため、原材料在庫率指数(季節調整済み、速報)は99.0と前月比0.4ポイントの上昇をみた。

(販売業者在庫——6月も大幅増続く)

6月の販売業者在庫(速報、季節調整済み、前月比)は+3.9%と前月(+3.7%)を上回る大幅増を示した。

品目別にみると、普通鋼鋼材、糸(生糸、毛糸)が増加、綿糸、合繊糸が減少が減少となったほかは、非鉄金属(銅、銅合金、アルミニウムの故くずおよびくず等)、機械器具(電気冷蔵庫等)、石油製品(灯油、軽油)、紙、繊維原料(綿花、洗上羊毛)、織物(綿織物、人絹織物)等が軒並み増加した。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減(−)率・%)

	47年(期別)			48年(期別)			48年(月別)		
	12月	3月	6月	4月	5月	6月	4月	5月	6月
総合指数	118.6	121.5	129.1	119.8	124.2	129.1			
前期(月)末比	1.7	2.4	6.3	−1.4	3.7	3.9			

(注) 通産省調べ、48年6月は速報。

(設備投資——増勢続く)

8月の一般資本財出荷(速報、季節調整済み、前月比)は前月増加(+3.1%)のあと+5.0%と著増を示した。品目別にみると、機械プレス、圧延機が大型機械の完工集中もあって著増を示したほか、クレーン、金属工作機、木工機械等の増加が目だった。

先行指標である機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み)は、電力からの受注減に加え、当月は製造業からの受注も、資材手当て難や価格面での折合い難などもあって、前月比−5.7%と2ヵ月連続の減少となった。

8月の建設工事受注(速報、季節調整済み、前月比)は、前月著増(+10.1%)を示したあと−6.6%と再び減少に転じた。これは、官公需が財政支出繰り延べや資材価格高騰に伴う建設業者の応札意欲減退に加え、前月著増(+22.2%)の反動もあ

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み月平均、単位・億円)

	47年	48年		48年		
	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
民需	2,322	2,782	3,157	3,791	4,283	2,916
	(13.9)	(19.8)	(13.5)	(33.8)	(13.0)	(−31.9)
同(船舶を除く)	2,241	2,503	2,843	3,122	2,834	2,673
	(21.1)	(11.7)	(13.6)	(13.5)	(−9.2)	(−5.7)
製造業	1,181	1,436	1,575	1,658	1,819	1,679
	(21.3)	(21.6)	(9.7)	(4.4)	(9.7)	(−7.7)
非製造業	1,155	1,362	1,583	2,174	2,438	1,285
	(8.8)	(17.9)	(16.2)	(78.0)	(12.1)	(−47.3)
同(船舶を除く)	1,073	1,065	1,271	1,448	1,049	1,027
	(20.0)	(−0.7)	(19.4)	(24.2)	(−27.5)	(−2.1)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減(−)率(%)。

って−19.3%と落ち込んだことが大きく響いたもので、民需は+6.4%(前月+5.7%)と、単価の上昇も加わって引き続き堅調な伸びを示した。

◇商品市況は総じて騰勢鈍化

9月の商品市況をみると、塩ビをはじめとする化学製品やセメント、石油、紙・パルプ、亜鉛等は根強い上伸基調を続けたものの、そ毛糸、生糸、銅が続落し、高騰を続けていた綿糸、スフ糸も反落、さらに8月中上昇の著しかった鉄鋼や一部内地材に高値訂正の動きがみられるなど、総じてここ数ヵ月来の著しい騰勢は鈍化のかたちとなった。こうした市況軟化の背景としては、①8月末公定歩合引上げなど総需要抑制策の一段の強化を契機に、製品流通在庫の増大等実体面の悪材料があらためて見直されたこと(天然糸等)、②7〜8月ごろに目だった供給制約要因(工業用水不足、電力不足等)が緩和するとともに、極端な品不足感が後退し、商品によっては高値追随難による買い控えや利食い売りも生じたこと(鉄鋼)、③これまで相場の下支え要因となっていた海外相場が反落したこと(豪毛、中国生糸、銅)、などの事情があげられる。

一方、化学、セメント、石油、紙・パルプ等が根強い上伸基調を続けているのは、実需が依然堅調の反面、供給の大幅増加が期待できないため需

給ひっ迫の大勢に大きな変化がないことが主因である。こうした状況から、上述のように一部商品にみられる市況軟化の動きが、急速に商品市況全般に波及する地合いとは思われない。

鉄鋼……9月に入ってからの鋼材市況をみると、棒鋼、形鋼、厚板等が反落に転じ、薄板、鋼管等も騰勢頭打ちとなるなど総じて小幅ながら高値訂正安商状が続いている。

これは、①8月末の高値では採算上問題であること、②電線等他資材の入手難ともあいまって建設工事進捗の遅れが目だってきたため、手当てを急ぐ必要が若干薄らいだこと、③鋼材あっせん所の開設に伴い割安玉の入手が可能となったこと、④8月下旬以降工業用水や電力の不足が若干緩和し、加えてメーカー各社の増産努力もあって生産が復調しつつあること、などから、ここへきて土建、自動車・弱電下請などユーザー筋の間で買い控えの動きが広がり、つれて末端流通業者も模様ながめに転じたためである。

繊維……合繊は輸出の好調もあって強基調を持続しているものの、そ毛糸、生糸が下落を続け、高騰を続けていた綿糸、スフ糸も反落するなど、これら原糸類の値下がりが目だった。

そ毛糸、生糸が軟化地合いを強めたのは、①仮需の反動や輸入の急増によって在庫圧迫が製品段階から糸段階に波及し荷動きが細ってきたこと、②これまで相場の下支え要因となっていた海外原料・糸価格が低落したこと(豪毛、中国生糸)、③こうした状況下総需要抑制策の強化が打ち出されたため、これまで軽視されがちであった実体面の悪材料があらためて見直されたこと、④さらに現実の資金繰りについても、3月ごろの高騰時の支手決済もあってひっ迫感が強まり、一部では在庫処分急ぎの動きも散見されはじめたこと、などのためである。また綿糸、スフ糸が反落したのは、①高値警戒感が強まっていたところに、そ毛糸、生糸の値下がりが増えたため、これまで供給制約要因(紡績時短、スト等)をはやして実勢以上に強まっていた品不足感や買い急ぎムードがはく落

したこと、②輸入の急増から末端の荷もたれ感が強まっていること(綿糸)、③関連資材(塩ビ)の入手難による買控えもみられたこと(シート加工メーカー、スフ糸)、が響いたものである。

また総じて強基調持続の合繊の中にも、アクリル・ステープルのように、最終製品の在庫増や代替性の強いそ毛糸の急落などによって需給の地合いがやや引き緩みをみているものも現われている。

もっとも、月中の推移をみると、上旬中低落のあと中旬以降は値ごろ感から機屋、ニッター筋が多少なりとも買い意欲を取り戻していることや、心理的な動揺による、ろうばい売りが減少したこともあってみ合い商状に転じ、一高一低を繰り返している。

非鉄金属……9月の非鉄金属市況をみると、亜鉛が続騰、鉛、アルミニウムも依然強含み基調にあるが、銅は8月末以来下落を続け、8月中の最高値に比べるとかなりの反落となった。銅が反落したのは、①LME相場が高値警戒観を強めた投機筋の利食い売りに押されて反落したこと、②国内面でも、実需の増勢に変化はみられないものの、輸入地金の大量入着、先安を見越した商社筋の在庫処分、さらに新設備稼働入りによる山元の大幅増産などから、ここへきて市中出回り量が急増し需給が急速に緩和しはじめたこと、などによる。また、亜鉛、鉛、アルミニウムが強基調を持続したのは、実需が増勢を続ける反面、生産は公害問題、電力不足などから伸び悩んでいるうえ、世界的にも品不足傾向が強いためである。

石油製品……9月の市況をみると、前月実施のメーカー・元売りの中間留分(灯油、軽油、A重油)値上げ浸透を映じて市中相場の上伸が続いているが、これは、①実需が堅調を持続している一方、供給側が灯油を中心に備蓄優先の態度をとっているため、7月来の増産にもかかわらず市場の需給ひっ迫感が解消せず先行きの品不足懸念も強かったこと、②精製メーカーが従来の原油価格高騰によるコスト・アップ分を製品価格へ転嫁するよう努めていることなどによるものである。メー

カー、元売り業者では引き続き原油価格の高騰に対処するため、今後ガソリンをはじめほぼ全油種にわたってさらに値上げを強行する構えを強めているが、このところ灯油等の備蓄進展が伝えられて冬場需要期の品不足懸念が薄らいでいるため、メーカー、元売り業者の意向として伝えられるような大幅値上げはむずかしいのではないかとの見方も多い。

セメント……出荷の伸びは、このところ財政支出繰延べに加え夏場の労務者不足や鋼材、塩ビ等関連資材の手当て難による建設工事遅延も響いて、ひとところに比べると若干鈍化。もっともメーカーでは、こうした動きは一時的なものであり、先行きは官公需(新幹線、縦貫道工事等)、民需(ビル、工場建築等)とも依然堅調とみて、強気の姿勢は変わっておらず、市況は小幅ながら続伸。

木材……7～8月にかけて間屋筋の在庫補てんおよび末端流通段階(小売店、中小工務店)の先高期待による仮需等需要集中を映じて急騰した木材市況は、9月中旬に至り内地材、米材を中心に頭打ち、材種によっては高値訂正の動きも顕現。

これは、①上記仮需の一巡、②木材以外の原材料(鋼材、電線、ビニール・パイプ等)調達難に伴う建売住宅等の建築工事遅延ないし工事見積り困難化を映じた中小建築業者の買控え、③金融引締め強化に伴う中小建築業者の資金繰り難および住宅ローン圧縮による個人の住宅投資の減退、などの懸念によるものとみられる。

一方、9月上旬までの合板市況高騰に支えられて上伸基調を続けてきた南洋材も、後半に入り合板市況が型枠合板を中心に小幅ながら訂正安となったことから、騰勢一服に転じた。

化学品……合成樹脂では、塩ビの小口スポットもので依然としてプレミアム価格がみられ、ポリエチレンも一段高となり、ポリスチレン、ポリプロピレン等も強含みを続けている。

8月末以降の出光徳山工場の一部稼働再開(年産10万トン)に伴い、エチレンは供給が小幅ながら増加しつつあるが、塩素は水銀汚染問題から生

産が依然として停滞を続けたため、塩ビの生産はなお低水準を脱していない。またその他の誘導品の生産も、メーカーがエチレンの増産分を極力塩ビ向けに振り向けていることから、微増にとどまっている。こうした状況から、各品種ともメーカーは引き続き既往受注分の消化に追われており、また建設配管業者を中心とするユーザーも手持ち在庫が極度に低水準であるだけに、依然として買い急ぎ姿勢を改めていず、市中の品不足状態が続いている。

また、基礎薬品類でもカセイソーダが一段高となり、硫酸、塩酸、液体アンモニア等も引き続き強含みに推移した。カセイソーダは、水銀汚染公害による操業度の低下、輸入玉の手当て難から供給が依然として細っているため、メーカーの9月出し値の引上げ(引上げ幅トン当たり5千円)が急速に浸透しつつあり、その他の品種でも公害問題による操業難(硫酸)、設備余力の減退(液体アンモニア)などから需給は引き続きひっ迫している。

紙……9月の市況をみると、先月末のメーカー値上げ(上質紙、クラフト紙等)が市中の極端な玉不足を映じて、ほぼ完全に浸透をみたほか、月央以降、コート紙、中質紙、段ボール原紙等についても一部メーカーの出し値が引き上げられるなど、騰勢を強めた。

これは、①実需が一般印刷用、包装用とも拡大傾向にあるうえ、ユーザー段階の在庫手当て意欲も強いのに対し、供給面では工業用水不足はほぼ解消したものの、公害問題や原料パルプ不足による増産難からタイトな需給基調が続いていること(メーカー、代理店在庫は減少の一途)、②品不足からパルプ、カセイソーダ等が引き続き高騰しているうえ公害防止コストの負担も大きく、メーカー側としてはこれらのコスト・アップ分は引き続き製品価格へ転嫁していく意向であること(アート・コート紙、段ボール原紙等)、などのためである。

砂糖……月前半は、売れ行き不振が前月に引き続き軟化地合いのまま推移したものの、月央以

降、海外原糖相場の高騰やメーカー筋の市況対策が奏功したこともあって反騰に転じた。

(卸売物価——騰勢変わらず)

卸売物価は、8月に前月比+2.1%(前年同月比+17.4%)と7月の記録的な伸び(前月比+2.0%)をさらに上回る騰勢を示したあと、9月に入っても上旬に前旬比+0.8%、中旬も同+0.3%と上昇を続けた。品目別にみると、上・中旬とも繊維製品、非鉄金属が下落したほか、鉄鋼も中旬には騰勢鈍化となったが、その他は化学製品、窯業製品、金属製品、一般・精密機器、食料品等多くの品目が根強い騰勢を示している。

(工業製品生産者物価——続騰)

8月の工業製品生産者物価は前月比+1.6%(前月も同+1.4%)と続騰。

品目別にみると、天然繊維・化繊が小反落とな

ったのを除いて、普通鋼・特殊鋼鋼材、非鉄金属、化学製品、繊維2次製品をはじめほぼ全面高となった。

(消費者物価——急騰)

9月の消費者物価(東京都区部、速報)は、前月比+2.8%(前年同月比+14.5%)と急騰した。これは、野菜の急騰を主因として食料が大幅上昇したのをはじめ、被服、住居なども上昇幅を広げたため、季節商品を除く総合でも前月比+1.6%と騰勢を強めた。8月の全国消費者物価は、被服が反落したものの、季節商品を中心に食料がかなりの伸びとなったほか、住居、雑費等も上昇したため前月比+0.9%と続騰(前年同月比+12.0%)。また、季節商品を際く総合では、+0.5%と前月に引き続き前月比+1%台を割ったものの、前年同月比では+12.0%と高い伸びとなった。

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	48 年		48 年			48 年 8 月			9 月	
		1~3月 平	4~6月 均	6 月	7 月	8 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬
総 平 均	100.0	4.9	3.3	1.3	2.0	2.1	0.9	0.5	0.9	0.8	0.3
食 料 品	13.4	3.1	2.7	1.6	0.8	1.5	0.7	0.8	0.3	0.7	0.8
非食料農林産物	2.4	22.1	— 3.9	2.6	5.3	6.4	1.4	1.5	2.3	— 1.2	0.5
繊 維 製 品	7.8	17.8	9.6	2.2	1.9	1.7	— 0.4	0.4	1.4	— 1.8	— 0.4
製 材・木 製 品	3.8	16.9	— 5.0	— 1.9	1.2	4.5	1.7	1.6	1.6	1.6	0.8
パルプ・紙・同製品	2.8	3.1	7.7	0.6	1.0	2.2	0.7	0	3.0	0.3	0
金 属 素 材	1.9	6.7	6.5	4.7	8.8	3.2	0.5	0	0.6	— 0.5	1.0
鉄 鋼	9.4	3.5	1.6	1.7	3.1	4.9	3.1	1.5	1.6	2.3	0.3
非 鉄 金 属	4.2	6.6	10.0	6.0	10.3	7.0	4.0	0.5	1.6	— 0.6	— 0.8
金 属 製 品	3.8	3.0	4.1	1.3	2.3	1.5	0.4	0.4	0.9	0.8	0.6
電 気 機 器	9.0	— 0.1	1.2	0.5	0.3	0.2	0.2	0	0	0.2	0.2
輸 送 用 機 器	6.8	0.2	0.4	0.4	0.1	0.1	0.1	0	0	0.2	0
一 般・精 密 機 器	10.8	1.4	5.7	1.4	1.1	0.8	0.3	0.4	0.4	1.0	0.2
化 学 製 品	8.8	1.2	3.7	0.7	1.4	2.7	1.7	0.4	1.0	1.9	0.2
石油・石炭・同製品	4.6	0.0	1.6	1.1	1.0	1.3	0.5	0.3	0.8	0.6	0.2
窯 業 製 品	3.1	1.5	7.5	1.1	1.3	1.2	0.3	0.1	0.3	0.6	0.8
雑 品 目	7.6	5.1	4.1	0.9	1.8	0.8	0.3	0.2	0.4	3.7	— 0.1
工 業 製 品	85.5	4.5	3.7	1.2	1.7	2.0	1.0	0.4	0.9	0.9	0.2
大企業性製品	63.3	2.9	3.4	1.3	1.9	1.7	0.9	0.4	0.6	1.1	0
中小企業性製品	20.1	8.9	4.4	0.7	1.0	2.7	0.9	0.7	1.3	0.7	0.3
非 工 業 製 品	14.5	6.7	1.7	2.0	3.1	2.8	0.8	1.0	1.1	0.4	1.0

(注) 日本銀行調べ。

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

			ウェイト	48 年		48 年			最近月の前年同月比	
				1~3月平均	4~6月平均	7月	8月	9月		
消費者物価	東京都区部	総合 (季節商品を除く)	100.0 91.3	3.2 2.6	4.9 4.4	0.8 0.8	0.9 0.5	* 2.8 1.6	* 14.5 13.0	
		食料・ 住宅・ 光熱・ 被服・ 雑費	食料	40.3	5.1	4.6	0.7	1.5	* 4.8	* 17.6
			住宅	11.8	2.0	3.4	0.5	0.8	1.9	11.1
			光熱	3.7	0.4	1.3	0.1	0.1	0.3	2.0
			被服	12.4	3.2	10.9	0.9	0.7	2.2	23.4
			雑費	31.8	1.5	3.5	1.1	0.2	0.7	9.2
			特殊分類							
	農水畜産物	16.6	7.1	5.8	1.1	3.4	...	18.2		
	工業製品	43.6	2.9	5.7	0.6	0.6	...	13.5		
	大企業製品	19.8	1.5	2.6	0.1	0.5	...	5.8		
	中小企業製品	23.8	3.7	8.0	1.0	0.8	...	19.2		
	サービス	37.0	1.9	3.6	0.2	0.3	...	9.3		
	全国	総合 (季節商品を除く)	100.0 91.0	2.7 2.5	5.3 4.5	0.7 0.7	0.9 0.5	12.0 12.0	
		輸出入物価								
	輸出入物価	輸出	—	1.5	3.1	1.3	1.6	...	9.8	
輸入		7.2		2.4	4.0	3.0	...	27.4		
交易条件		— 5.3		0.6	— 2.6	— 1.3	...	— 13.8		

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局調べ、輸出入物価は日本銀行調べ。
2. *印は速報。

(輸出入物価——いずれも大幅続騰)

8月の輸出物価は、化学製品、金属・同製品、繊維品が引き続き高い伸びを示したのを主因に前月比+1.6%と続騰(前月同+1.3%)。また、輸入物価は、機械器具が反落したものの、食料品、雑品目の大幅上昇をはじめは全面高となったため、前月比+3.0%と引き続き高い伸び(前月同+4.0%)となった。

この結果、8月の交易条件指数(89.4、45年=100)は前月比-1.3%と前月(同-2.6%)に続き悪化。

◇国際収支は6ヵ月連続の赤字

8月の国際収支は、総合収支で872百万ドルの赤字と本年3月以来6ヵ月連続の赤字(6ヵ月間の赤字累計額は5,927百万ドル)を記録、赤字幅は前月縮小(657百万ドル)のあと再び若干の拡大をみた。

これは、貿易収支が輸出船引渡しの反動減や原

油輸入の集中などの事情が重なって黒字が大幅に縮小したことが主因である。

8月の貿易収支を季節調整後でみると、輸出が前月著伸のあと前月比-4.6%と減少した反面、輸入が前月落込みの反動増や輸入価格の上昇から前月比+15.0%と大幅な伸びを示したため、収支じりは150百万ドルの赤字と39年3月以来久々に赤字を記録した。とくに対米収支じりは、通関ベース(季節調整済み)で104百万ドルの赤字となった。

長期資本収支は、既往最高の流出超を記録した前月(流出超1,011百万ドル)に比べ半減したが、これは、アブダビ石油関係直接投資などの特殊な大口流出が集中した反動

で、本邦資本面では対外直接投資やバンク・ローン等が引き続き活発であり、外国資本面では対日証券投資が流入超になったことを主因に10ヵ月ぶりに7百万ドルの流入超となった。

なお、短期資本収支は、前月に滞留した証券売却代金が送金のため引き落とされたが、船舶前受金の受取り著増等による貿易信用の増加から251百万ドルと引き続き大幅な流入超。

金融勘定では、為銀ポジションはユーロ・マネー取入れの著増や外銀借入れなどを中心に900百万ドルの悪化(既往最高の46年8月の1,084百万ドルに次ぐ大幅悪化)を示し、この結果1,936百万ドルの負債超過(前月同1,036百万ドル)となった。

この間、外貨準備高は8月(32百万ドル減)に続き9月中も331百万ドル減と7ヵ月連続減少(減少累計額は4,272百万ドル)し、9月末残高は14,795百万ドルとなった。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	47 年	48 年		48 年			47年 8 月
	10~12月	1~3月	4~6月	6 月	7 月	8 月	
経 常 収 支	2,370	489	△ 372	△ 218	226	△ 315	625
貿易収支	2,662	1,045	622	132	521	16	727
輸 出	8,175	7,419	8,481	2,942	3,249	2,895	2,386
輸 入	5,513	6,374	7,859	2,810	2,728	2,879	1,659
貿易外収支	△ 255	△ 534	△ 855	△ 277	△ 269	△ 310	△ 94
移 転 収 支	△ 37	△ 22	△ 139	△ 73	△ 26	△ 21	△ 8
長期資本収支	△ 1,832	△ 2,231	△ 2,241	△ 554	△ 1,011	△ 548	△ 334
本邦資本	△ 1,829	△ 2,018	△ 1,714	△ 525	△ 962	△ 555	△ 386
外国資本	△ 3	△ 213	△ 527	△ 29	△ 49	7	52
基礎的収支	538 (116)	△ 1,742 (△ 1,047)	△ 2,613 (△ 2,353)	△ 772 (△ 733)	△ 785 (△ 913)	△ 863 (△ 1,029)	291 (169)
短期資本収支	909	996	663	66	247	251	228
誤 差 脱 漏	362	△ 58	△ 1,357	△ 253	△ 119	△ 260	38
総 合 収 支	1,809	△ 804	△ 3,307	△ 959	△ 657	△ 872	557
金融勘定	1,809	△ 804	△ 3,307	△ 959	△ 657	△ 872	557
外貨準備増減	1,876	△ 240	△ 2,925	△ 669	△ 42	△ 32	488
その他	△ 67	△ 564	△ 382	△ 290	△ 615	△ 840	69
外貨準備高	18,365	18,125	15,200	15,200	15,158	15,126	16,372
為 銀 対 外 ポ シ シ ョ ン	508	△ 169	△ 544	△ 544	△ 1,036	△ 1,936	68

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支 ベ ー ス			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
47 年 10 ~ 12 月	2,556 (+ 7.7)	1,809 (+ 10.6)	747	2,609 (+ 8.0)	2,242 (+ 13.0)	2,066 (+ 8.0)	2,813 (+ 9.0)	2,295 (+ 13.0)
48 年 1 ~ 3 月	2,707 (+ 5.9)	2,127 (+ 17.6)	580	2,758 (+ 5.7)	2,448 (+ 9.2)	2,113 (+ 2.3)	2,761 (- 1.9)	2,894 (+ 26.1)
4 ~ 6 月	2,867 (+ 5.9)	2,573 (+ 20.9)	294	2,920 (+ 5.9)	3,057 (+ 24.9)	2,246 (+ 6.1)	3,013 (+ 9.1)	3,570 (+ 23.4)
48 年 5 月	2,871 (+ 2.1)	2,596 (+ 9.3)	275	2,964 (+ 2.2)	3,112 (+ 11.7)	2,260 (+ 6.6)	3,203 (+ 10.5)	3,470 (+ 2.7)
6 月	2,920 (+ 1.7)	2,749 (+ 5.9)	171	2,895 (- 2.3)	3,274 (+ 5.2)	2,346 (+ 3.8)	2,939 (- 8.2)	3,861 (+ 11.3)
7 月	3,065 (+ 5.0)	2,672 (- 2.8)	393	3,200 (+ 10.5)	3,267 (- 0.2)	2,370 (+ 1.0)	3,325 (+ 13.1)	3,733 (- 3.3)
8 月	2,924 (- 4.6)	3,074 (+ 15.0)	△ 150	2,965 (- 7.3)	3,520 (+ 7.7)	2,493 (+ 5.2)	3,254 (- 2.1)	3,690 (- 1.2)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
 2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。
 3. 季節調整はセンサス局法による。

(輸出——大幅減)

8月の輸出(国際収支ベース)は、季節調整後で
-4.6%と前月(+5.0%)と様変わりになり大幅

通 関 輸 出 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	47年	48 年		48 年	
	10~ 12月	1~3月	4~6月	7 月	8 月
食 料 品	193 (+ 3)	161 (+ 16)	176 (+ 21)	64 (+ 7)	69 (+ 9)
魚 介 類	121 (+ 30)	88 (- 1)	101 (+ 5)	38 (- 15)	45 (- 7)
繊維・同製品	826 (+ 5)	666 (+ 10)	783 (+ 9)	276 (+ 8)	279 (+ 12)
合 織 糸	109 (- 1)	93 (+ 16)	106 (+ 21)	34 (+ 17)	39 (+ 30)
綿 織 物	66 (+ 12)	42 (- 9)	45 (- 22)	16 (- 27)	15 (- 26)
合 織 織 物	245 (+ 9)	197 (+ 20)	234 (+ 22)	85 (+ 28)	87 (+ 25)
化学製品	513 (+ 31)	450 (+ 15)	523 (+ 26)	183 (+ 17)	184 (+ 14)
非金属鉱物製品	130 (+ 19)	111 (+ 7)	146 (+ 24)	54 (+ 25)	48 (+ 14)
金属・同製品	1,453 (+ 19)	1,354 (+ 32)	1,580 (+ 43)	584 (+ 41)	535 (+ 29)
鉄 鋼	1,070 (+ 15)	1,037 (+ 33)	1,216 (+ 50)	452 (+ 47)	411 (+ 34)
機 械 機 器	4,535 (+ 29)	4,214 (+ 24)	4,730 (+ 37)	1,886 (+ 47)	1,600 (+ 26)
(船舶を除く)	3,796 (+ 27)	3,406 (+ 21)	3,970 (+ 32)	1,469 (+ 33)	1,361 (+ 27)
事務用機器	155 (+ 37)	153 (+ 50)	189 (+ 76)	69 (+ 70)	69 (+ 74)
テ レ ビ	141 (+ 16)	137 (+ 11)	154 (+ 8)	58 (+ 18)	55 (+ 21)
ラ ジ オ	296 (+ 26)	239 (+ 21)	313 (+ 28)	108 (+ 10)	115 (+ 21)
自 動 車	856 (+ 10)	810 (+ 11)	875 (+ 29)	338 (+ 44)	266 (+ 31)
二輪自動車	218 (+ 10)	177 (- 18)	182 (- 11)	64 (- 11)	68 (+ 15)
船 舶	739 (+ 42)	807 (+ 38)	760 (+ 75)	417 (+ 132)	239 (+ 22)
光学機器	221 (+ 33)	187 (+ 19)	236 (+ 25)	84 (+ 22)	87 (+ 37)
テ レ コ ー ダ ー	199 (+ 36)	158 (+ 24)	202 (+ 30)	69 (+ 13)	70 (+ 23)
そ の 他	706 (+ 21)	597 (+ 21)	678 (+ 11)	264 (+ 15)	266 (+ 18)
合 計	8,356 (+ 23)	7,562 (+ 23)	8,649 (+ 32)	3,326 (+ 36)	2,981 (+ 23)
(船舶を除く)	7,617 (+ 21)	6,753 (+ 21)	7,857 (+ 28)	2,895 (+ 28)	2,742 (+ 23)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

通 関 輸 入 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	47年	48 年		48 年	
	10~ 12月	1~3月	4~6月	7 月	8 月
食 料 品	1,037 (+ 21)	1,059 (+ 33)	1,492 (+ 68)	533 (+ 99)	509 (+ 75)
肉 類	122 (+ 51)	110 (+ 80)	244 (+ 197)	91 (+ 233)	82 (+ 171)
魚 介 類	169 (+ 6)	139 (+ 16)	250 (+ 82)	90 (+ 97)	87 (+ 77)
小 麦	108 (- 4)	133 (+ 83)	163 (+ 78)	62 (+ 97)	48 (+ 103)
とうもろこし	89 (+ 43)	104 (+ 68)	107 (+ 92)	45 (+ 105)	49 (+ 119)
砂 糖	106 (+ 54)	77 (- 21)	101 (- 13)	47 (+ 39)	34 (+ 5)
原 燃 料	3,674 (+ 30)	4,062 (+ 36)	5,174 (+ 71)	1,695 (+ 75)	1,832 (+ 61)
羊 毛	145 (+ 112)	221 (+ 152)	317 (+ 182)	98 (+ 221)	92 (+ 120)
綿 花	142 (+ 16)	195 (+ 15)	192 (+ 5)	52 (+ 52)	50 (0)
鉄 鉱 石	363 (+ 10)	394 (+ 27)	377 (+ 37)	133 (+ 27)	139 (+ 25)
鉄 鋼 く ず	37 (+ 55)	73 (+ 233)	111 (+ 355)	41 (+ 444)	35 (+ 211)
非鉄金属鉱	290 (+ 26)	322 (+ 49)	445 (+ 87)	205 (+ 97)	196 (+ 124)
大 豆	129 (+ 5)	137 (+ 24)	223 (+ 87)	76 (+ 119)	71 (+ 62)
木 材	495 (+ 29)	655 (+ 80)	991 (+ 126)	235 (+ 80)	297 (+ 103)
石 炭	284 (+ 28)	284 (+ 14)	343 (+ 30)	118 (+ 43)	112 (- 1)
原 油	1,142 (+ 38)	1,148 (+ 25)	1,340 (+ 53)	464 (+ 64)	559 (+ 68)
化学製品	324 (+ 17)	352 (+ 32)	411 (+ 59)	148 (+ 68)	148 (+ 34)
機 械 機 器	657 (+ 11)	740 (+ 3)	764 (+ 25)	319 (+ 62)	295 (+ 46)
航 空 機	59 (- 9)	76 (+ 43)	21 (- 77)	33 (- 15)	19 (+ 181)
そ の 他	979 (+ 59)	1,078 (+ 83)	1,515 (+ 105)	572 (+ 131)	649 (+ 115)
合 計	6,671 (+ 29)	7,312 (+ 35)	9,390 (+ 70)	3,279 (+ 85)	3,433 (+ 68)
工業用原料	4,460 (+ 34)	5,019 (+ 41)	6,404 (+ 77)	2,130 (+ 82)	2,314 (+ 67)
消 費 財	1,543 (+ 26)	1,530 (+ 37)	2,217 (+ 75)	821 (+ 105)	822 (+ 82)
一般消費財	340 (+ 62)	340 (+ 55)	469 (+ 86)	190 (+ 117)	224 (+ 107)
資 本 財	604 (+ 9)	687 (0)	704 (+ 22)	295 (+ 59)	274 (+ 43)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

に減少、原計数の前年同月比でも +21.3%と前月 (+35.2%) をかなり下回った。なお、通関ベースの邦貨表示額でも前年同月比 +5.8% (前月同 +16.1%) と低下している。このところ輸出は数量の伸びが停滞ぎみの反面、価格の上昇が高まっている。

品目別(通関ベース)にみると、合繊糸、ラジオ、テープレコーダー、科学光学機器等が輸出価格の上昇を主因に引き続き高い伸びを示した反面、①船舶の引渡し減少(7月417百万ドル、8月239百万ドル)、②モデル・チェンジ等の影響による自動車の船積み減(7月338百万ドル、8月266百万ドル)、③輸出玉不足や船積み遅滞等による鉄鋼の落込み(7月452百万ドル、8月411百万ドル)など、輸出主力商品の特殊要因に基づく減少が目だった。

地域別にみると、東南アジア、中近東、豪州向けが、合繊、機械を中心に引き続き高い伸びをみせたが、米国向けが自動車、鉄鋼、繊維品等の減少からほぼ前年同月並みにとどまり、西欧向けも鉄鋼、船舶の大幅減から前年同月比 +23% (前月同 +60%) と低下した。

先行指標である輸出信用状接受高(季節調整済み、前月比)は、8月に +5.2% と高い伸びを示したあと、9月は鉄鋼、一般機械、繊維等の減退を中心に -2.3% と減少。原計数の前年同月比でも +18.0% と前月 (+33.0%) をかなり下回った。

(輸入——前月の反動から急増)

8月の輸入(国際収支ベース)は、季節調整後で +15.0% と特殊要因(ウラン緊急輸入320百万ドル)の影響の大きかった本年3月 (+20.3%) 以来の高い伸びとなり、原計数の前年同月比でも +68.0% と高水準を続けている。また、通関ベースの邦貨表示額でも前年同月比 +44.6% (前月同 +58.4%) と大幅な伸びとなっている。輸入については従来数量増加の寄与率が高かったが、このところ価格上昇の影響が一段と強まっている。

品目別(通関ベース)にみると、原油、鉄鉱石、木材等の原燃料の入着集中や、国際的な価格高騰による一般消費財の輸入増などが目だった。

地域別には、高水準を続けてきた米国等北米地域の伸びが若干鈍化したものの、西欧、東南アジア、中近東などからの輸入は依然根強い伸びを続けている。

9月の輸入承認・届出額(季節調整済み、前月比)は、2ヵ月連続減少(7月 -3.3%、8月 -1.2%) のあと、小麦、銅地金の増加や大型航空機、原子力関係物資の集中から +4.1% とかなり高い伸びとなった。

8月の輸入素原材料在庫(季節調整済み、前月比)は前月比 -0.3% と減少したため、同消費が +0.7% と低い伸びにとどまったものの、同在庫率指数(45年=100)は106.5と前月比1.2ポイントの下落となった。